

2. 試料の捕集について

試料の捕集方法は、直径47mm、平均孔径 $0.8\mu\text{m}$ の円形白色のセルロースエステル製メンブランフィルターを使用し、直径47mmの円形ろ紙用のホルダーで有効ろ紙直径が35mmとなるオープンフェイス型のものを使用する。ホルダーは、カウル付きのものを使用することが望ましい。

有効ろ紙直径が35mmの捕集用ろ紙を用い、吸引流量10L/minで連続4時間空気を捕集（2400L）することを原則とする。ホルダーの設置高さは、原則として地上1.5m以上2.0m以内とする。

なお、当日が強風、降雨等の場合は原則として捕集を避けることとする。

ただし、「吹付け材等を使用している建築物等で解体中の現場」については、「解体現場等におけるアスベストの測定方法」に準じる。

3. 分析方法について

(1) 試料の分析方法

試料の分析方法は、「解体現場におけるアスベストの測定方法」に準じる。

(2) 災害時における試料分析手順

- ① 位相差顕微鏡法で総繊維数を計数し、総繊維数濃度を算出する。
- ② 総繊維数濃度が1 f/L を超過した場合、災害時にはアスベスト繊維の同定を迅速に確認する必要があるため、位相差／偏光顕微鏡法等のアスベスト繊維が確認できる迅速測定法又は、分析走査電子顕微鏡法にて繊維の確認を行う。なお、直接アスベスト繊維を確認できる測定方法にて大気中のアスベスト繊維数濃度の測定を行ってもよい。ただし、総繊維数濃度も計数しておくことが望ましい。

なお、試料捕集後は、速やかに位相差顕微鏡にてフィルターのスクリーニングを行い、繊維が多く確認できたものから優先して分析を行うこととする。